

本の読み方と国語力について

C3p51082 福田穂佳

目次

1. はじめに	2
2. リサーチ・クエスチョンと調査概要	3
3. 調査結果.....	4
3-1 1か月でどれくらい本を読むのか	4
3-2 本を読むときの行動について	4
3-3 本の読み方について	6
3-4 文章を考える機会について	7
3-5 文章を考える時に利用するサービスについて	8
3-6 文章を書くことへの意識について	9
3-7 間違いやすい言葉の意味について	10
3-8 間違いやすい言葉の意味について	11
4. 因子分析の結果	12
4-1 従属変数	12
4-2 本の読み方	13
4-3 国語力への意識	14
5. 重回帰分析の結果.....	16
5-1 本の読み方は国語力に関係するのか	16
5-2 本を読む機会は国語力への意識に関係するのか	16
6. まとめ.....	17
7. 参考文献	18

1. はじめに

近年、グローバル化が進み、様々な場面で英語力が求められる世の中になってきているが、それ以前に日本人が日本語を正しく使えないことは問題になりうるのではないかと感じた。私は「言語」とは国の1つの文化であるため、慎重に取り扱うべきだと考え、この調査を実施した。

まず、国語力とはなにか。文部科学省は国語力を「これからの時代に求められる国語力」として、大きく2つの領域に分けて捉えている。1つ目が国語力の中核を成す領域、2つ目が国語の知識や教養、価値観、感性等の領域である。

1つ目の国語力の中核を成す領域とは、「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」の4つの力によって構成され、言語を中心とした情報を処理、操作する能力であり、国語力の中核と考えられるものだ。この「4つの力」が具体的な言語活動として発現したものが、聞く、話す、読む、書く、という行為であると考えられている。「考える力」とは分析力、論理構築力などを含む、論理的思考力の事で、言語情報に含まれる事実や根拠の明確でない推測などを正確に見極め、的確に捉える能力だ。また、五感を通して入ってくる非言語情報を言語化する能力でもある。「感じる力」とは相手の気持ちや文学作品の内容、表現、事実を感じ取ったり、感動したりできる情緒力の事である。言語の使い方に対して、微妙な意味の違いや美醜を感じ取る言語感覚もここに含まれる。「想像する力」とは、経験していない事柄や現実には存在していない事柄を推し量り、頭の中でイメージを自由に思い描くことのできる力の事だ。文学作品を読み、そのシーンを想像したり、相手の話を聞き、表情や態度から言葉に表れていない思いなどを察したりする能力でもある。「表す力」とは、考え、感じ、理解した事を表すために必要な表現力であり、自分の考えや思いを具体的な発現や文章として、相手や場面に配慮しつつ展開していける能力である。

続いて、2つ目の国語の知識や教養、価値観、感性等の領域とは、先程の「4つの力」が働く時の基盤を成すものである。「4つの力」に直結する国語の知識の部分と各人の教養、価値観、感性に分けることが出来る。基本的には読書などの方法で生涯にわたって形成されていくものだが、国語の知識に関しては学校教育の果たす役割が極めて大きいとされている。例を挙げると、語彙、漢字や仮名遣いなどの表記に関する知識、言葉の決まりや働きなどの文法に関する知識、文章の組み立て方などの内容構成に関する知識、言葉遣いや文体、修辞法などの表現に関する知識、などがある。

現状の調査として、文部科学省の令和3年度の「国語に関する世論調査」の結果を参照すると、「言葉や言葉の使い方について社会全般で課題がある」と感じている人が84.6パーセントをしめ、その中でどのような課題があると思うかを尋ねたところ、「改まった場面で相応しい言葉遣いができない」、「敬語を正しく使えない」といった声あげられている。また、日本教育新聞の令和4年度の「情報機器の普及により、どんな影響を受けると思うか」の調査では、「手で字を書くことが減る」、「漢字を正確に書く力が衰える」といった声が見受け

られた。よって本研究では、本を読む機会が減ったことと国語力に関係を記録するために、本の読み方と国語力についての調査を分析した。

2. リサーチ・クエスチョンと調査概要

本の読み方と国語力について調査の概要は次である。調査期間は 2025 年 11 月 27 日～11 月 28 日であり、調査対象者は全国の 20 代、30 代、40 代、50 代、60 代の各年齢層について男女 10 人ずつ、1 ヶ月に 1 冊以上本を読むと答えた合計 100 人である。調査実施方法には、インターネットオンライン法を用いた自記式のアンケートを採用し、平均して 1 か月に本を読む頻度、本を読むときに AI 等のサポートを利用しているか、間違いやすい言葉の意味を調べることなく答えられるかを主に尋ねた。

また、アンケートに答えてもらう人を選ぶ標本抽出の方法は、インターネット調査のモニターが持つ特性を考慮し、無作為抽出法のような確率的な方法ではなく、性別、年齢、による均等割り付けで抽出する方法を用いた。本研究では次のリサーチ・クエスチョン（RQ）を設定した。

RQ 1：本の読み方は国語力に関係するのか

RQ 2：本を読む機会は国語力への意識に関係するのか

次章より RQ を検証していく。

表 1 調査の概要

調査期間	2025 年 11 月 28 日～2025 年 11 月 28 日
調査主体	メディア調査研究法 C
調査対象	全国の 20 代、30 代、40 代、50 代、60 代以上の男女 100 人
調査方法	インターネットオンライン法による自記式アンケート調査
標本抽出方法	調査モニターに対し、性別、年齢で均等割り付け
有効回答数	N=100
主な質問項目	本を読む頻度、本の読み方、自分で文章を考える機会、文章を書く際に利用するサービス、間違いやすい言葉の意味

3. 調査結果

3-1 1 か月でどれくらい本を読むのか

1 か月にどのくらい本を読むのか尋ねるとき「あなたは平均して1 ヶ月でどれくらい、マンガや雑誌、教科書ではない本を読みますか。「1. 1～2冊」～「5. 9冊以上」のうち、あてはまるものを1つ選んでください。」という質問文を用いた。そして、答えの選択肢として「1～2冊」「3～4冊」「5～6冊」「7～8冊」「9冊以上」を設定して、当てはまる選択肢をひとつ選んでもらう形で回答を求めた。その結果が下の図 3.1 である。

結果を確認すると、本を「1. 1～2冊」読むという人は51%、「3～4冊」という人は26%、「5～6冊」という人は9%、「7～8冊」という人は5%、「9冊以上」という人は9%であった。1 か月に1～2冊本を読んでいる人が最も多く、全体の5割を占めていた。

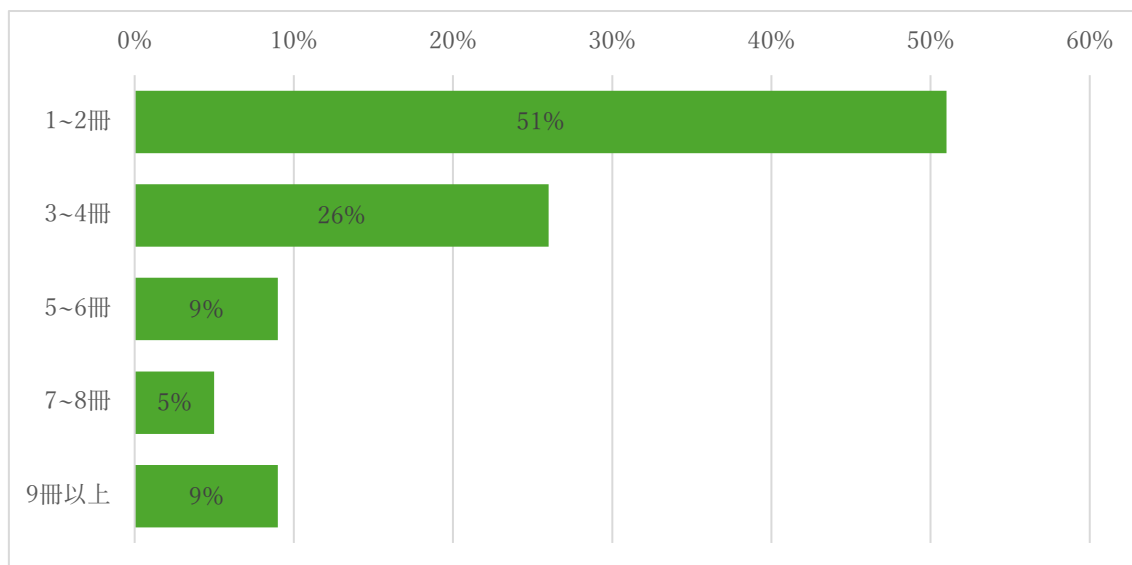


図 3.1 1 か月に本を読む頻度

3-2 本を読むときの行動について

本を読むときの行動について尋ねるとき「本を読むときのあなたについてお聞きします。あなたは、次のことにどの程度あてはまりますか。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」の中からあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.2 である。

「頭の中で発音しながら読んでいる」に「あてはまる」と答えた人が16%、「ややあてはまる」が43%、「あまりあてはまらない」が23%、「あてはまらない」が18%であった。

「盛り上がる曲を BGM として聞きながら読んでいる」に「あてはまる」と答えた人が7%、「ややあてはまる」が18%、「あまりあてはまらない」が30%、「あてはまらない」が

45%であった。

「落ち着く曲をBGMとして聞きながら読んでいる」に「あてはまる」と答えた人が12%、「ややあてはまる」が20%、「あまりあてはまらない」が34%、「あてはまらない」が34%であった。

「本の内容をレビューしたり要約しているブログ等を参考にしている」に「あてはまる」と答えた人が14%、「ややあてはまる」が25%、「あまりあてはまらない」が27%、「あてはまらない」が34%であった。

「ChatGPT等の生成AIに文章を要約してもらって読む」に「あてはまる」と答えた人が10%、「ややあてはまる」が11%、「あまりあてはまらない」が25%、「あてはまらない」が54%であった。

「音声AIに文章を代わりに読んでもらう」に「あてはまる」と答えた人が7%、「ややあてはまる」が12%、「あまりあてはまらない」が24%、「あてはまらない」が57%であった。

「声優やナレーターによる本の読み聞かせを使う」に「あてはまる」と答えた人が10%、「ややあてはまる」が15%、「あまりあてはまらない」が23%、「あてはまらない」が52%であった。

「わからない言葉があったら辞書で調べながら読む」に「あてはまる」と答えた人が20%、「ややあてはまる」が52%、「あまりあてはまらない」が20%、「あてはまらない」が8%であった。

「電子書籍の形で読むのが好きだ」に「あてはまる」と答えた人が15%、「ややあてはまる」が25%、「あまりあてはまらない」が31%、「あてはまらない」が29%であった。

「紙の本で読むのが好きだ」に「あてはまる」と答えた人が54%、「ややあてはまる」が36%、「あまりあてはまらない」が8%、「あてはまらない」が2%であった。

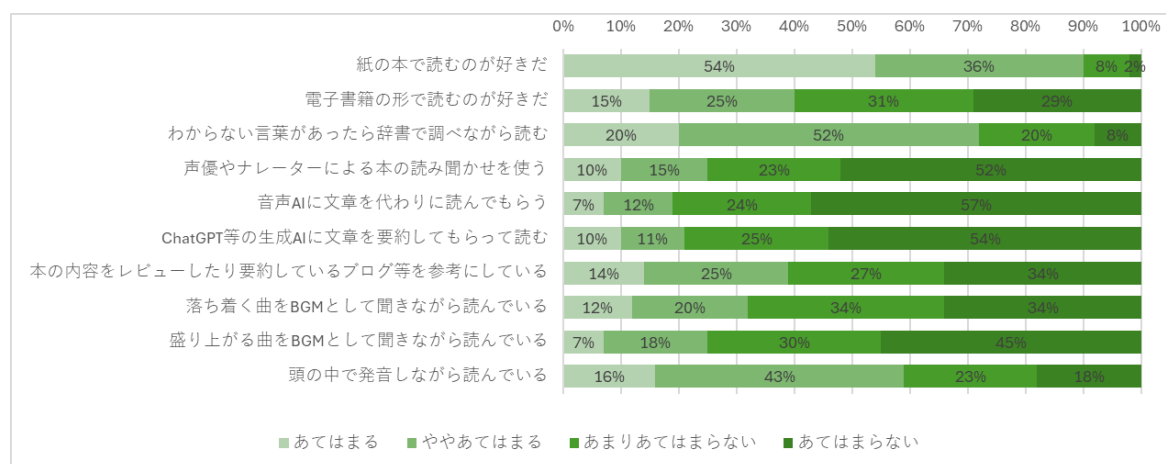


図 3.2 本を読むときの行動について

3-3 本の読み方について

本の読み方について尋ねるとき「Q3.あなたはどのように本を読みますか。次の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」の中から、あなたにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.3 である。

「読んだ本の内容は忘れてしまうことが多い」に「あてはまる」と答えた人が 6%、「ややあてはまる」が 36%、「あまりあてはまらない」が 44%、「あてはまらない」が 14%であった。

「前の内容で忘れているところがあったら読み直す」に「あてはまる」と答えた人が 17%、「ややあてはまる」が 56%、「あまりあてはまらない」が 16%、「あてはまらない」が 11%であった。

「重要だと思ったり気に入った部分には付箋を貼る」に「あてはまる」と答えた人が 8%、「ややあてはまる」が 32%、「あまりあてはまらない」が 27%、「あてはまらない」が 33%であった。

「読み終わった後、同じ箇所を読み直す」に「あてはまる」と答えた人が 13%、「ややあてはまる」が 46%、「あまりあてはまらない」が 27%、「あてはまらない」が 14%であった。

「分からない用語があってもそのまま読み進める」に「あてはまる」と答えた人が 10%、「ややあてはまる」が 34%、「あまりあてはまらない」が 45%、「あてはまらない」が 11%であった。

「理解するより全体像をつかむことを優先する」に「あてはまる」と答えた人が 8%、「ややあてはまる」が 31%、「あまりあてはまらない」が 37%、「あてはまらない」が 24%であった。

「全文を読まずに、要点だけ拾う」に「あてはまる」と答えた人が 6%、「ややあてはまる」が 19%、「あまりあてはまらない」が 32%、「あてはまらない」が 43%であった。

「長い文章は最初と最後だけ読み、中間は飛ばす」に「あてはまる」と答えた人が 7%、「ややあてはまる」が 10%、「あまりあてはまらない」が 35%、「あてはまらない」が 48%であった。

「結論やまとめの部分だけを読む」に「あてはまる」と答えた人が 6%、「ややあてはまる」が 20%、「あまりあてはまらない」が 32%、「あてはまらない」が 42%であった。

「章立て、小見出しを一通り見て、必要なところだけ読む」に「あてはまる」と答えた人が 7%、「ややあてはまる」が 23%、「あまりあてはまらない」が 33%、「あてはまらない」が 37%であった。

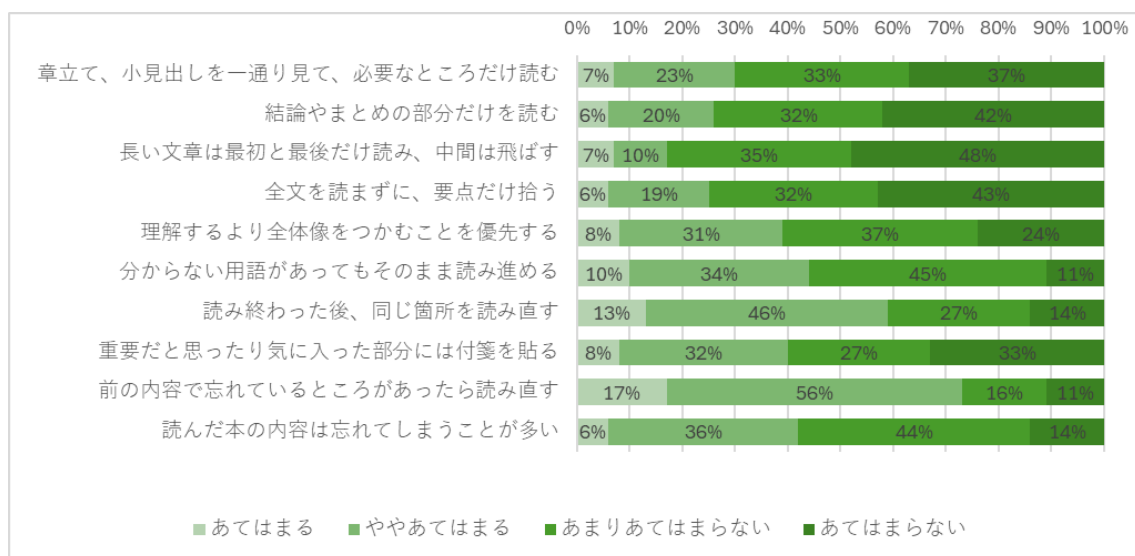


図 3.3 本の読み方について（流し読みをしているか）

3-4 文章を考える機会について

文章を考える機会について尋ねるとき「Q4.あなたは、どのようなときに自分で文章を考えますか。あてはまるものをすべて選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.4 である。以下、結果を列挙していく。

「手紙やメッセージカードを書くとき」にあてはまると答えた人が 49%であった。「本・映画・商品などのレビューを書くとき」にあてはまると答えた人が 20%であった。「SNS で投稿・コメントをするとき」にあてはまると答えた人が 30%であった。「仕事（学業）以外でメッセージ・メールを送るとき」にあてはまると答えた人が 38%であった。「仕事（学業）の報告書やレポートを作成するとき」にあてはまると答えた人が 41%であった。「仕事（学業）関連でメールを送るとき」にあてはまると答えた人が 42%であった。

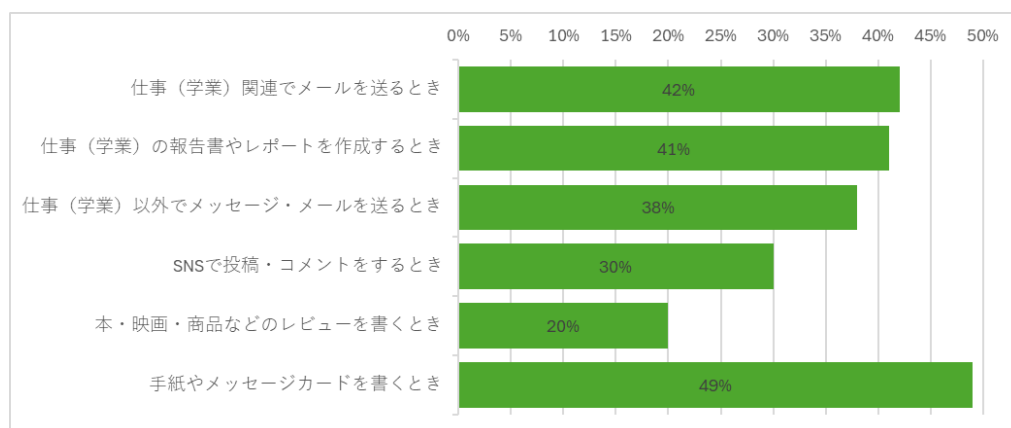


図 3.4 文章を考える機会について

3-5 文章を考える時に利用するサービスについて

文章を考える時に利用するサービスについて尋ねるとき「Q5.あなたは、自分で文章を考えるときに予測変換機能や生成 AI を使いますか。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」の中からあてはまるものを 1 つずつ選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.5 である。

「他の文章をコピーペーストすることが多い」に「あてはまる」と答えた人が 10%、「ややあてはまる」が 17%、「あまりあてはまらない」が 36%、「あてはまらない」が 37%であった。「辞書（電子や Web 版含む）で言葉の意味を確認しながら書く」に「あてはまる」と答えた人が 13%、「ややあてはまる」が 33%、「あまりあてはまらない」が 25%、「あてはまらない」が 29%であった。

「Google 等の検索エンジンで言葉の意味を調べながら書く」に「あてはまる」と答えた人が 18%、「ややあてはまる」が 36%、「あまりあてはまらない」が 28%、「あてはまらない」が 18%であった。「toruno や Notta などの音声入力機能を利用する」に「あてはまる」と答えた人が 8%、「ややあてはまる」が 15%、「あまりあてはまらない」が 20%、「あてはまらない」が 57%であった。

「IWI 日本語構成ツールなどを使って文章を校正する」に「あてはまる」と答えた人が 7%、「ややあてはまる」が 25%、「あまりあてはまらない」が 15%、「あてはまらない」が 53%であった。「Workflowy や Omni Outliner などのアウトライン生成ツールを使う」に「あてはまる」と答えた人が 11%、「ややあてはまる」が 19%、「あまりあてはまらない」が 16%、「あてはまらない」が 54%であった。

「Word などにある文章校正機能で修正しながら書く」に「あてはまる」と答えた人が 12%、「ややあてはまる」が 31%、「あまりあてはまらない」が 27%、「あてはまらない」が 30%であった。「自分で書く前に ChatGPT などの生成 AI に作成してもらう」に「あてはまる」と答えた人が 11%、「ややあてはまる」が 23%、「あまりあてはまらない」が 17%、「あてはまらない」が 49%であった。「単語の予測変換機能を使う」に「あてはまる」と答えた人が 21%、「ややあてはまる」が 42%、「あまりあてはまらない」が 18%、「あてはまらない」が 19%であった。

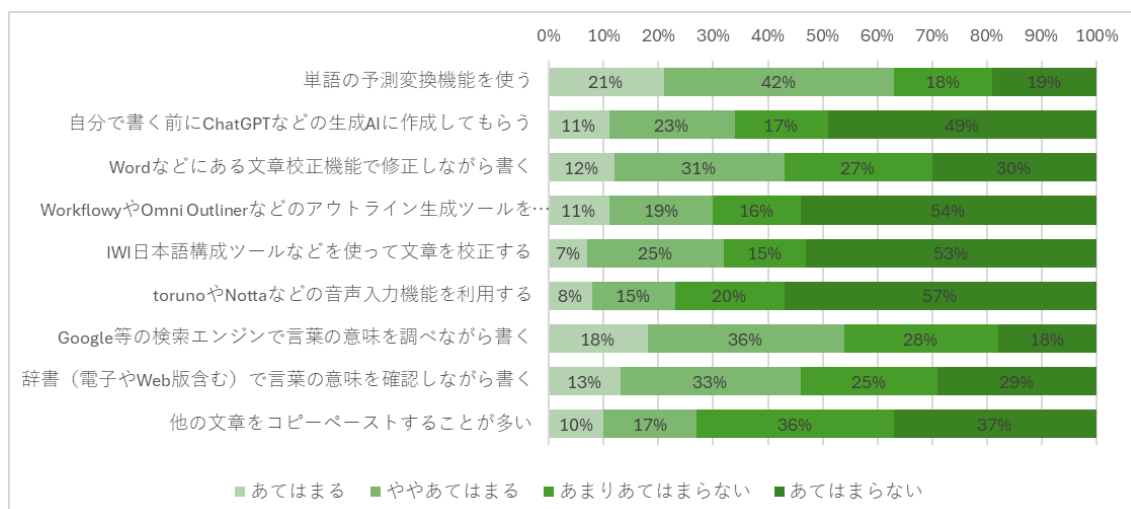


図 3.5 文章を考える時に利用するサービスについて

3-6 文章を書くことへの意識について

文章を書くことへの意識について尋ねるとき「Q6 文章を考えたり書いたりするとき、次のようなことを感じることはありますか。以下の項目についてそれぞれ、「1. 感じる」～「4. 感じない」の中からあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.6 である。

「キーボード入力よりもフリック入力の方が早く書ける」に「感じる」と答えた人が 8%、「やや感じる」が 24%、「あまり感じない」が 40%、「感じない」が 28%であった。

「手書きで文章を書かなくなった」に「感じる」と答えた人が 28%、「やや感じる」が 39%、「あまり感じない」が 23%、「感じない」が 10%であった。

「会話のメモを取るのが苦手」に「感じる」と答えた人が 14%、「やや感じる」が 35%、「あまり感じない」が 37%、「感じない」が 14%であった。

「文章を上手く要約できないと思うことが増えた」に「感じる」と答えた人が 12%、「やや感じる」が 35%、「あまり感じない」が 40%、「感じない」が 13%であった。

「文章を書くとき論点を決められないことが増えた」に「感じる」と答えた人が 10%、「やや感じる」が 31%、「あまり感じない」が 46%、「感じない」が 13%であった。

「伝えたいことを言葉にできないことが増えた」に「感じる」と答えた人が 12%、「やや感じる」が 36%、「あまり感じない」が 36%、「感じない」が 16%であった。

「言葉の言い回しや言葉遣いがわからないことが増えた」に「感じる」と答えた人が 9%、「やや感じる」が 34%、「あまり感じない」が 39%、「感じない」が 18%であった。

「調べないと言葉の意味がわからないことが増えた」に「感じる」と答えた人が 12%、「やや感じる」が 34%、「あまり感じない」が 41%、「感じない」が 13%であった。

「漢字を正しく書けないことが増えた」に「感じる」と答えた人が 19%、「やや感じる」

が45%、「あまり感じない」が25%、「感じない」が11%であった。

「必要な漢字がすぐに頭に浮かばない」に「感じる」と答えた人が19%、「やや感じる」が48%、「あまり感じない」が25%、「感じない」が8%であった。

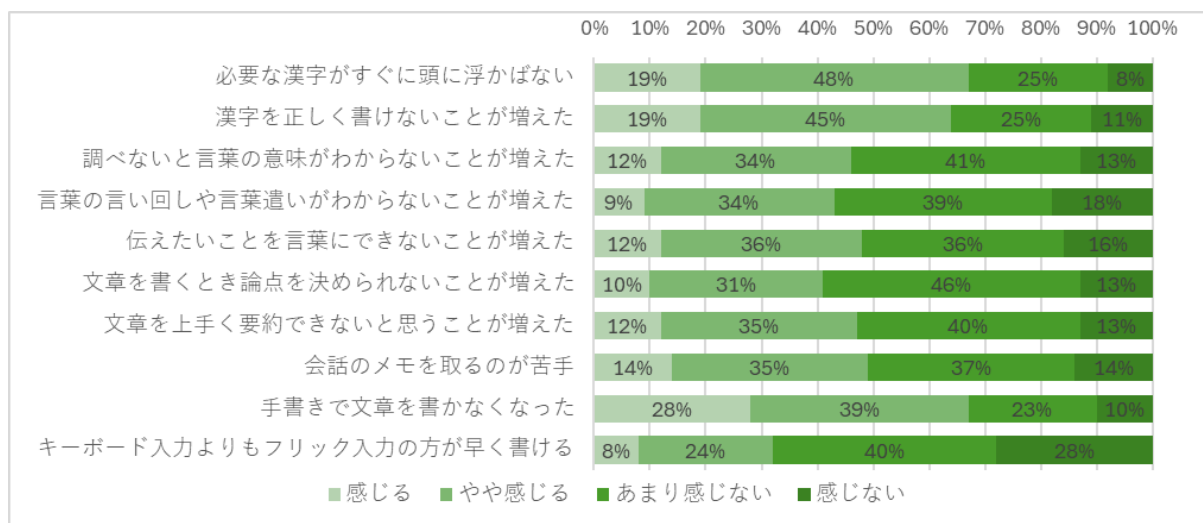


図 3.6 文章を書くことへの意識について

3-7 間違いやすい言葉の意味について

間違いやすい言葉の意味について尋ねるとき「Q7 次の言葉についてそれぞれ、「A」「B」「C」のうち、どれの意味が正しいと思いますか。正しいと思うもの1つずつを選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.7 である。

「失笑する」について正解の「A. こらえきれず、吹き出して笑う」と答えた人は24%、「B. 笑いも出ないほどあきれる」と答えた人は69%、「C. AとBの両方」と答えた人は7%であった。

「涼しい顔をする」について正解の「B. 関係があるのに知らん振りする」と答えた人は34%、「A. 大変な状況でも平気そうにする」と答えた人は53%、「C. AとBの両方」と答えた人は13%であった。

「C. AとBの両方」

「雨模様」について正解の「A. 雨が降りそうな様子」と答えた人は29%、「B. 小雨が降ったりやんだりしている様子」と答えた人は55%、「C. AとBの両方」と答えた人は16%であった。

「姑息」について正解の「A. 一時しのぎな」と答えた人は22%、「B. 卑怯な」と答えた人は65%、「C. AとBの両方」と答えた人は13%であった。

「割愛する」について正解の「B. 惜しいと思うものを手放す」と答えた人は33%、「A. 不必要なものを切り捨てる」と答えた人は51%、「C. AとBの両方」と答えた人は16%であった。

あった。

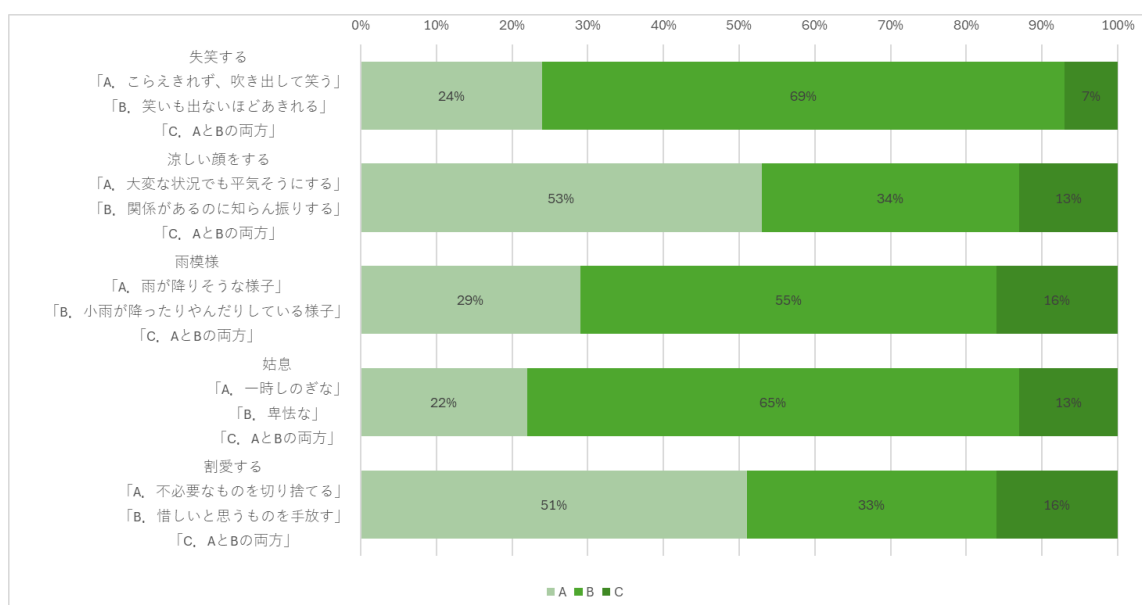


図 3.7 間違いやすい言葉の意味についての問題（簡単）

3-8 間違いやすい言葉の意味について

間違いやすい言葉の意味について尋ねるとき「Q8 次の言葉についてそれぞれ、「A」「B」「C」のうち、どれの意味が正しいと思いますか。正しいと思うもの1つずつを選んでください。」という形で回答を求めた。その結果が下の図 3.8 である。

「号泣する」について正解の「A. 大声を上げて泣く」と答えた人は 24%、「B. 激しく泣く」と答えた人は 41%、「C. A と B の両方」と答えた人は 35%であった。

「悪運が強い」について正解の「A. 悪い行いをしたのに報いを受けずにいる様子」と答えた人は 18%、「B. 悪い状況になっても、うまく助かる様子」と答えた人は 62%、「C. A と B の両方」と答えた人は 20%であった。

「煮え湯を飲まされる」について正解の「B.信頼していたものから裏切られる」と答えた人は 59%、「A.敵からひどい目に遭わされる」と答えた人は 26%、「C. A と B の両方」と答えた人は 15%であった。

「他力本願」について正解の「A. すべての人を救おうとする願いに救われること」と答えた人は 14%、「B. 他人の力をあてにすること」と答えた人は 74%、「C. A と B の両方」と答えた人は 12%であった。

「佳境を迎える」について正解の「B. 物語などで最も興味深い・面白い場面になること」と答えた人は 50%、「A. 物語などでヤマ場を乗り越え、終わりかけていること」と答えた人は 34%、「C. A と B の両方」と答えた人は 16%であった。

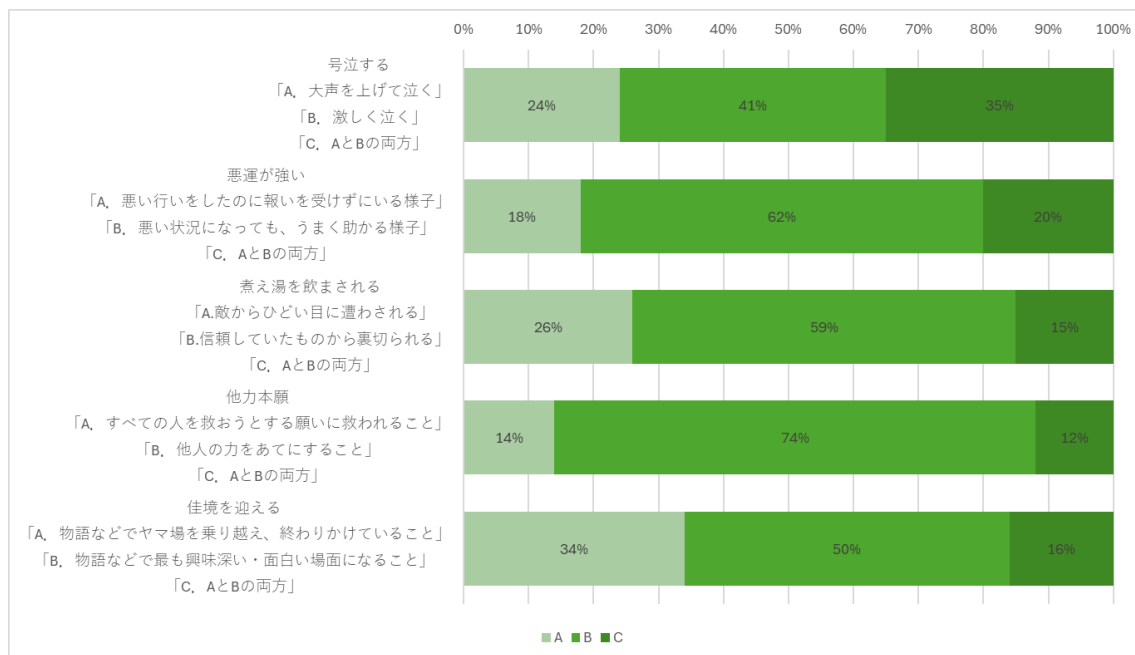


図 3.8 間違いやすい言葉の意味についての問題（難しい）

4. 因子分析の結果

ではこれらの 1 ヶ月に 1 冊以上、本を読む人々は、どのように本を読んでいるのか、また自身の国語力に対し、どのような意識を持っているのか。統計的な手法を用いて明らかにすることとする。なお、以下では回答いただいた 100 全てのサンプルを用いた分析を行う。

4-1 従属変数

本調査では先行研究に基づき、「次の言葉についてそれぞれ、「A」「B」「C」のうち、どれの意味が正しいと思いますか。正しいと思うもの 1 つずつを選んでください。」と意味を間違えやすい言葉を正しく使っているかに関する質問項目を設定した。簡単な問題として「(1) 失笑する」「(2) 涼しい顔をする」「(3) 雨模様」「(4) 姑息」「(5) 割愛する」の 5 問。難しい問題として「(1) 号泣する」「(2) 悪運が強い」「(3) 煮え湯を飲まされる」「(4) 他力本願」「(5) 佳境を迎える」の 5 問。合計 10 個の意味を間違えやすい言葉の正答率が国語力に寄与すると仮定した。それぞれの言葉について、「(A・B) 正しい意味」を 1 点、「(A・B) 間違えやすい意味」「(C) A と B の両方」を 0 点の変数として設定した。「言葉の意味の正答率」に関する設問項目は点数を逆転させた。

4-2 本の読み方

「Q3.あなたはどのように本を読みますか。次の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」の中から、あなたにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」の10の項目の因子分析（最尤法，プロマックス回転）によって得られた、本の読み方に関する構造を表4.1に示す。予備的な分析を行い、因子間相関などをふまえ、最終的に3つの因子を採用することとした。以下では、この因子の特徴を順に述べる。

(1) 因子1：必要な部分だけ読む

因子1は「(2) 結論やまとめの部分だけを読む」(因子負荷量 0.939, 以下のカッコ内数値も同様)といった本の1部分だけを読むという読み方、「(3) 長い文章は最初と最後だけ読み、中間は飛ばす」(0.869)「(1) 章立て、小見出しを一通り見て、必要なところだけ読む」(0.863)「(4) 全文を読まずに、要点だけ拾う」(0.791)「(5) 理解するより全体像をつかむことを優先する」(0.647)、といった自身にとって必要な情報を重視する読み方の項目の因子負荷量が高かった。これらを、本の読み方において「必要な部分だけ読む」と解釈した。

(2) 因子2：理解できるまで読み直す

因子2は「(7) 読み終わった後、同じ箇所を読み直す」(0.901)といった同じ箇所を繰り返し読むという読み方、「(9) 前の内容で忘れていたところがあったら読み直す」(0.624)、といった本の内容を理解できるまで読み直す読み方の項目の因子負荷量が高かった。これらを、本の読み方において「理解できるまで読み直す」と解釈した。

(3) 因子3：流し読みしている

因子3は「(10) 読んだ本の内容は忘れてしまうことが多い」(0.803)といった記憶には残りづらい読み方、「(6) 分からない用語があってもそのまま読み進める」(0.431)「(8) 重要だと思ったり気に入った部分には付箋を貼る」(0.386)、といった本の内容をその場だけで楽しむ読み方の項目の因子負荷量が高かった。これらを、本の読み方において「流し読みしている」と解釈した。

表 4.1 本の読み方に関する質問の因子分析結果

	F1	F2	F3
F1 必要な部分だけ読む			
結論やまとめの部分だけを読む	.939		
長い文章は最初と最後だけ読み、中間は飛ばす	.869		
章立て、小見出しを一通り見て、必要なところだけ読む	.863		
全文を読まずに、要点だけ拾う	.791		
理解するより全体像をつかむことを優先する	.647		
F2 理解できるまで読み直す			
読み終わった後、同じ箇所を読み直す		.901	
前の内容で忘れていたところがあったら読み直す		.624	
F3 流し読みしている			
読んだ本の内容は忘れてしまうことが多い			.803
分からない用語があってもそのまま読み進める			.431
重要だと思ったら気に入った部分には付箋を貼る			.386
因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法			

4-3 国語力への意識

「Q6. 文章を考えたり書いたりするとき、次のようなことを感じることはありますか。以下の項目についてそれぞれ、「1. 感じる」～「4. 感じない」の中からあてはまるものを1つずつ選んでください。」の10の項目の因子分析（最尤法，プロマックス回転）によって得られた、国語力への意識に関する構造を表4.2に示す。予備的な分析を行い、因子間相関などをふまえ、最終的に2つの因子を採用することとした。以下では、この因子の特徴を順に述べる。

（1）因子1：考えを言葉にできないと感じることが増えた

因子1は「（7）文章を上手く要約できないと思うことが増えた」（0.846）といった文章を構成する力の低下、「（6）文章を書くとき論点を決められないことが増えた」（0.835）「（5）伝えたいことを言葉にできないことが増えた」（0.831）「（4）言葉の言い回しや言葉遣いがわからないことが増えた」（0.824）「（8）会話のメモを取るのが苦手」（0.621）「（3）調べないと言葉の意味がわからないことが増えた」（0.540）「（10）キーボード入力よりもフリック入力の方が早く書ける」（0.533）、といった考えを言葉にする、語彙力のなさを自覚している項目の因子負荷量が高かった。これらを、国語力への意識において「考えを言葉に

できないと感じることが増えた」であると解釈した。

(2) 因子2： 漢字を手書きできなくなった

因子2は「(2) 漢字を正しく書けないことが増えた」(1.04)といった手書きで書く力の低下、「(1) 必要な漢字がすぐに頭に浮かばない」(0.697)「(9) 手書きで文章を書かなくなった」(0.599)、といった文章を手書きで書く機会と力の減少を自覚している項目の因子負荷量が高かった。これらを、国語力への意識において「漢字を手書きできなくなった」であると解釈した。

表4.2 文章を書くとき感じることにについて聞いた質問の因子分析結果

	F1	F2
F1 考えを言葉にできないと感じることが増えた		
文章を上手く要約できないと思うことが増えた	.846	
文章を書くとき論点を決められないことが増えた	.835	
伝えたいことを言葉にできないことが増えた	.831	
言葉の言い回しや言葉遣いがわからないことが増えた	.824	
会話のメモを取るのが苦手	.621	
調べないと言葉の意味がわからないことが増えた	.540	
キーボード入力よりもフリック入力の方が早く書ける	.533	
F2 漢字を手書きできなくなった		
漢字を正しく書けないことが増えた		1.040
必要な漢字がすぐに頭に浮かばない		.697
手書きで文章を書かなくなった		.599
因子抽出法：最尤法 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法		

5. 重回帰分析の結果

これまでに述べた独立変数を用いて、リサーチ・クエスチョン別に重回帰分析（強制投入法）を行った。

5-1 本の読み方は国語力に関係するのか

独立変数「必要な部分だけを読む」「考えを言葉にできないと感じる」を用い、本の読み方が国語力と関連するかを検証するため、重回帰分析を実施した。従属変数には「言葉の意味の正答率（逆転）」を用いた。

分析結果を表 5.1（調整済み $R^2=0.031$ ）に示す。独立変数「必要な部分だけを読む」は、従属変数「言葉の意味の正答率（逆転）」に対して有意な正の関連を示した（ $\beta = .35$, $p=.039$ ）。

独立変数「考えを言葉にできないと感じる」に対して有意な負の関連を示した（ $\beta = -.33$, $p=.049$ ）。以上の結果は、必要な部分だけではなく本の全体を読んでいる人は言葉の意味の正答率が高く、考えを言葉にできないと感じている人は正答率が低いことを示唆する。

表 5.1 言葉の意味の正答率を従属変数にした重回帰分析

分類	標準偏回帰 係数(β)	有意確率	VIF
必要な部分だけ読む	.351	.039	2.862
考えを言葉にできないと感じる	-.330	.049	2.795
理解できるまで読み直す	-.019	.860	1.164
流し読みしている	-.193	.125	1.506
生成 AI 等に頼って文章を書く	-.094	.511	2.077
漢字を手書きできなくなった	.230	.087	1.799
R	.299		
自由度調整済決定係数(修正 R^2 値)	.031		

5-2 本を読む機会は国語力への意識に関係するのか

「必要な部分だけ読む」「漢字を手書きできなくなった」を独立変数とし、本を読む機会・読み方が国語力への意識に影響するかを検証するため、重回帰分析を実施した。従属変数には「考えを言葉にできないと感じる」を用いた。

分析結果を表 5.2 に示す（調整済み $R^2 = .642$ ）。独立変数「必要な部分だけ読む」は、従属変数「考えを言葉にできないと感じる」に対して有意な正の関連を示した（ $\beta = .39$, $p < .001$ ）。

独立変数「漢字を手書きできなくなった」は、従属変数「考えを言葉にできないと感じる」に対して有意な正の関連を示した（ $\beta = .47$, $p < .001$ ）。また、従属変数「考えを言葉にできないと感じる」に対して有意な負の関連を示した（ $\beta = -.33$, $p = .049$ ）。以上の結果は、必要な部分のみ読むという読み方をする人は国語力の低下を自覚しており、同時に漢字を書く力の低下も自覚していることを示唆する。

表 5.2 考えを言葉にできないと感じるを従属変数にした重回帰分析

分類	標準偏回帰 係数(β)	有意確率	VIF
必要な部分だけ読む	.388	<.001	2.441
理解できるまで読み直す	-.063	.344	1.153
流し読みしている	.142	.067	1.540
生成 AI 等に頼って文章を書く	.054	.543	2.069
漢字を手書きできなくなった	.474	<.001	1.171
R	.801		
自由度調整済決定係数(修正 R^2 値)	.642		

6. まとめ

最後に、本研究の分析によって明らかになった点を総括する。

まず、RQ 1「本の読み方は国語力に関係するのか」についてである。独立変数「必要な部分だけを読む」を用いた重回帰分析の結果、従属変数「言葉の意味の正答率（逆転）」は有意な正の関連を示した。また、独立変数「考えを言葉にできないと感じる」を用いた重回帰分析の結果、従属変数「言葉の意味の正答率（逆転）」は有意な負の関連を示した。以上より、必要な部分だけではなく本の全体を読んでいる人は言葉の意味の正答率が高く、考えを言葉にできないと感じている人は正答率が低いことを示唆された。したがって、本の読み方は、国語力と関連している可能性が高いことが分かった。

続いて、RQ 2「本を読む機会は国語力への意識に関係するのか」についてである。独立変数「必要な部分だけ読む」および「漢字を手書きできなくなったにあてはまる」を用いた重回帰分析の結果、従属変数「考えを言葉にできないと感じる」はいずれも有意な正の関連を示した。以上より、必要な部分のみ読むという読み方をする人は国語力の低下を

自覚しており、同時に漢字を書く力の低下も自覚していることが示唆された。したがって、本を読む機会及び読み方と国語力への意識・実際の国語力は関連している可能性が高い。

以上が、本研究において明らかになったことである。

7. 参考文献

- 文部科学省（2023） これからの時代に求められる国語力
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/003.htm
- 文部科学省（2022） 令和3年度「国語に関する世論調査」の結果について
https://www.mext.go.jp/content/20221221-mxt_syoto01-000026652_3.pdf
- 文化庁（2023） 令和4年度「国語に関する世論調査」の結果の概要
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/93945901_01.pdf
- 文化庁（2024） 令和5年度「国語に関する世論調査」の結果の概要
https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/94111701_02.pdf
- 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
- 日本教育新聞（2022） 情報機器の普及で漢字書く力が低下
<https://www.kyoiku-press.com/post-249541/>
- 日本経済新聞（2012） 漢字「書けなくなった」6割 IT普及で急増
https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG2004I_Q2A920C1CR8000/
- 日本教育工学会論文誌（2018） 寺田恵理・保崎則雄
「手で書くこと、手書き文字に対する認識に関する一調査」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjet/42/Suppl./42_S42077/_pdf/-char/ja
- 秋田喜代美・無藤隆（1996） 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境 に関する行動の検討
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep1953/44/1/44_109/_pdf/-char/ja
- 京都大学大学院教育学研究科（2015） 小山内秀和・米田英嗣・古見文一・楠見孝 日本人大学生における読書量の測定
https://www.jstage.jst.go.jp/article/pacjpa/79/0/79_2EV-096/_pdf/-char/ja
- 順正短期大学保健科（2002） 情報機器による文章作成のデジタル化に対する一考察
片山章郎
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsei/18/4/18_KJ00001015181/_pdf/-char/ja